

てんじん

連携ニュース

独立行政法人
国立病院機構 甲府病院
（山梨県甲府市天神町十一の三十五）
（電話〇五五二二五三六二一三六代巻）
発行責任者
院長 長沼博文

2007年1月1日発行
第13号

<http://www.hosp.go.jp/kofu/>



医療制度改革と メタボリック症候群

病院長 長沼博文

新年明けましておめでとうございませう。今年も医療に荒波が続きますが、医療制度について考えてみたいと思います。平成十八年六月に国会で医療制度改革関連法案が成立し、生活習慣病対策が強化されることになりました。

健康保険組合など医療保険の保険者が、生活習慣病について健診を行い、その後の保健指導を行うことを義務づけた「生活習慣病健診／保健指導事業」が平成二十年四月から開始されます。生活習慣病とは、内蔵脂肪、高脂血症、高血圧、耐糖能異常（糖尿病）など最近話題になっ

ている「メタボリック症候群」が主な対象になります。対象となる年齢は四十才から七十四才とかなり幅広く、かなり大掛かりな事業です。これらの対象者に健診を行い、データを分析し、何か異常があればそのリスクに応じて保健指導を徹底しようという仕組みです。今回の法案の背景には、増加しつつある生活習慣病の発症を予防して医療費を抑制しようという国の意向があると思います。これは日本だけでなく先進国共通の問題です。健診で潜在的な患者さんやその予備軍を探し出し、早い段階で指導や治療を始めることに

なるでしょう。しかし、保険者には健診と保健指導が法律上義務化され戸惑いもあると思います。実際にこの事業が始まると、病院や診療所も多いに関わることになると思います。

当院にも内分泌、代謝を専門とする医師が三名おり、メタボリック症候群を呈する患者さんを治療する機会が増えると思います。厚生労働省から二〇〇四年に公表された「糖尿病実態調査報告」によると、二〇〇二年の時点で糖尿病が強く疑われる人の数は約七四〇万人、糖尿病の可能性を否定出来ない人の数が約八八〇万人とされています。合計すると一、六二〇万人にもものぼります。このように糖尿病やその予備軍の方も大勢いますから、早期に治療を始めることが必要になると思います。

メタボリック症候群を放置しておく、結局は全身の血管特に動脈の硬化が進むでしょうから、結果として脳卒中や心筋梗塞を発症することになるでしょう。

う。「血管とともに人は老いる」といいますから、予防が第一です。脳卒中についても、高血圧をきちんと治療するようになつてから、高血圧性の脳内出血は劇的に減っています。こまめなスクリーニングと早期治療の必要性は言うまでもありません。健康で自立して暮らす期間である健康寿命を長くすることが出来れば、この事業は成功と言えるでしょう。



当院から望む富士山



診療科案内

外科

外科部長 角田 元

新年が明けまして、二〇〇七年となりました。私は子供の頃に、二十一世紀になったら、世の中は一体どうなっているんだろう、と夢見ました。その二十一世紀となつてから七年がたちましたが、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。

当院外科では、以前から、緊急な対応が必要な患者様に対して迅速にお応えできるように、消化器科との連携が強固であるのが特徴でした。治療には手術的な治療法と手術をしない治療方法である保存的な治療法があります。手術が必要な方には必要な手術的治療法を、緊急に手術が必要な方には一刻も早く手術を、手術が必要ではない方には必要十分な保存的治療法を、という判断が素早く出来るのがメリットといえます。

診療内容は、消化器疾患を中心に、乳腺、甲状腺、体表、ヘルニアなど、幅広い分野での診

断と治療を担当しております。

昨今、臨床研修医制度により、地方の医師不足が問題となつておりますが、当院外科でも影響が出てきています。具体的には昨年春より外科医の人数が減少してしまい、外来診療を一時制限せざるを得ませんでした。その間は患者様方には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。そのため、山梨大学医学部から、毎日各分野の専門家の応援をいただけることとなり、最新の情報を基にした医療の提供が可能となっております。

そして、昨年の夏には消化器科の稲岡先生が外来診療担当として就任され、秋には竹花先生が外科医として一名増員となりました。幅広い分野に対応するためには、どうしてもマンパワーが必要となります。今後とも更なる人員の増強を図って充実した医療の提供が可能となるように努力していきます。

治療の面からは、手術的な治療

方法が必要となる場合があります。当院外科では低侵襲な手術療法として、腹腔鏡下胆嚢摘出術に代表される腹腔鏡手術に力を入れていきます。現状では低侵襲なかわりに各種の制限があり、腹腔鏡であらゆる手術をするということは出来ません。しかし、将来は主たる手術方法となると考えています。そこで、病院にもバックアップしていただいて、積極的に導入してきています。

外科に限らず、診断の補助となる医療機器の分野では、昨年春より導入された最新式のCT検査装置により、今までは考えられなかったような、色々な角度からの撮影が可能となりました。これ

によって、診断能力が飛躍的に向上しました。内視鏡検査機器(胃カメラ)では、画像の鮮明なハイビジョンカメラを使用しており、早期がんの発見に威力を発揮しています。その他にも、乳腺専用レントゲン装置、骨密度測定装置、MRI検査装置、核医学検査、血管造影検査など、充実した機器と熟練した人員がそろっています。

このように、既に充実した人員および機器の整備が進んできています。今後は今まで以上に医師、看護師等のソフト面、検査機器等のハード面の充実を図り、患者様にさらにご満足いただけるような医療を提供して行けるように努力していきたいと考えています。



職場紹介

薬剤科

薬剤科長 福島 誠一

新年明けましておめでとうございます。

甲府病院は、平成十六年に独立行政法人に移行し、同年十月に当院と旧西甲府病院が統廃合され今日に至っております。これに伴い、

薬剤科の業務は、少なからず体制が変化しております。

多くの方は、薬剤科の業務は、処方せんに従ってお薬を調合している所と思われているのではないのでしょうか。今でもそれが中心で

はありますが、調剤以外にも多種の
ことを行っています。

- ・ 服薬指導
 - ・ 医薬品情報
 - ・ 注射剤の混合
 - ・ 製剤（市販にないお薬の調製）
 - ・ 医薬品管理（在庫、保管等）
 - ・ 治験薬管理
- （お薬になる前の調査・研究）
- ・ 医薬品に関する調査・研究
 - 等々・・・

これらの業務を薬剤師5名と薬剤
助手2名で行っております。
以上のうち主な業務をご紹介します。

まずは、服薬指導について。

検査薬などの一部の医薬品を除いて外来処方せんは、院内から院外に発行となりました。これにより、入院患者様指向という発想の転換により薬剤管理指導（服薬指導）が重点におかれるようになりました。服薬指導は、医師の同意のもとに入院患者様が服用していた、また服用しているお薬の薬歴をとり、服薬指導によってお薬の効果や副作用をご理解していただき、そして副作用の早期発見の目的で行うものです。昨年度中旬より、諸般の事情により中断しておりました二病棟の服薬指導を再開いたしました。患者様へのサービスの一環とし



安全キャビネット

て行っておりますが、なによりも病棟スタッフの協力のおかげと思っております。

次に、医薬品情報について。

昨今は情報化時代、どなたでもある程度の情報を得ることができ
ます。しかし、重要なのは正しいデータに基づいた情報をいかに収集し、その正否を判断すること、そしていかにタイムリーに伝達することが医薬品情報にとって大切で
す。常に有益な情報をお忙しい医師に少しでもフィードバックするように心がけております。

注射剤の混合についてですが、昨年六月には、無菌製剤処理専用の部屋が設置されました。当初、外来棟に設置場所を探しておりましたが、適当な場所がなく、薬剤科内の製剤室を改良して安全キャビネットが整備されました。これによって、抗がん剤注射薬の混合を無菌の状態下で調製しております。件数は僅かですが、外来患者様にとって、より安全なお薬を提供できればと思っております。

ところで、薬学を取り巻く環境は、益々変化して
おります。皆様の中で、ご承知の方もいらつしやるかと思いますが、昨年四月より大学薬学部が六年制教育となりました。一部の薬科大学は老舗の大手大学と統合の検討も始ま
っております。

また、最近では各種学会において高度な専門知識と技術をもった者を専門職として認定
しています。それぞれ高い認定基準がありま
すが、薬学領域においても、がん専門薬剤師、糖尿病療法指導士、榮

養サポート専門療法士、日本臨床薬理学認定薬剤師が現在確立
されています。
我々、甲府病院薬剤科も時代の
変化に応じた質の向上を求めて今
後も精進して参りますので、よろ
しくお願い致します。
最後に、本年は皆様にとって、
よい年になることを願っております。



薬剤科スタッフ一同

外 来 診 療 担 当 表

平成19年1月1日現在		月	火	水	木	金
内 科	1	渡 邊	川 口	渡 邊	渡 邊	渡 邊
	2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	川 口	黒 澤
	3	川 口	尾 畑	高 木	中 尾	高 木
	4	高 崎	高 崎		高 崎	
	5					
脳神経外科	5		長 沼			長 沼
特 殊 外 来 <small>午後3:00~</small>		高 木		高 崎		高 崎
精 神 科			平 野・塩 江			
小 児 科 <small>神 経 外 来 (午後) 外 来 (午後) 摂 食 (午後)</small>	1	久 富	稲 見	久 富	久 富	稲 見
	2	加 藤	田 口	斉 藤	加 藤	田 口
	3	中 根	神 谷	中 村	中 根	野 口
	3	中 村	野 口	神 谷	第1週 畠 山 第4週 神 谷 第2週 小 野 第3週 小 野	中 根
消 化 器 科		河 口	稲 岡	稲 岡		河 口
外 科		鈴 木	角 田	竹 花	鈴 木	角 田
整 形 外 科	1	萩 野	若 生	若 生	萩 野	萩 野
	2	若 生	落 合	落 合	落 合	落 合
泌 尿 器 科		相 川	川 口	相 川	相 川	相 川
産 婦 人 科	1	深 田	深 田	高 木	深 田	深 田
	2	伊 東	高 木	伊 東	伊 東	高 木
	3	山梨大学より				山梨大学より
眼 科		古 市	古 市	古 市	手術日	古 市
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎	

※乳児健診(小児科) 毎週火・木曜日 (完全予約制)
 ※予防接種(小児科) 毎週水曜日 (完全予約制)
 ※人間ドック 毎週月・火・木曜日 (完全予約制)
 ※脳ドック 毎週火・金曜日 (完全予約制)
 ※結核検診 毎週月・水・金曜日 14時から16時
 ※毎月第4金曜日 黒澤医師 糖尿病教室

看護職員を募集しています。
【お問い合わせ先】看護部長室
TEL/055-253-6131 (代)
FAX/055-251-5597

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

皆様のお陰を持ちまして、「てんじん」も発刊一周年を迎えることが出来ました。今後ともご愛読の程、よろしくお願いいたします。

さて、当「てんじん」も時期は未定ですが、本年中の早いうちにリニューアルを計画しています。大幅に紙面を増刷し、内容も盛りだくさんなものにしたいと考えております。どうぞ、ご期待下さい。

最後に、現在「ノロウイルス」が全国的に猛威を奮っています。皆様方におかれましても、手洗いを徹底され予防に努めていただけますようお願い申し上げます。

(山)

医療連携室直通電話
TEL 055-2440-6223 (代)
FAX 055-2440-6225